

国の行政機関は、その出先機関として各地域に地方支分部局を設置しており、地方自治体をはじめとして、さまざまな機関と連携を取りながら、広範囲に取り組みを行っています。

当財団は、中部圏ネットワーク第2弾として、当財団の顧問に就任していただいている中部地域の地方支分部局長などを訪問し、この地域における役割や主要なプロジェクトなどについてのお話を伺い、その活動についてご紹介しています。

第8回は、財務省名古屋税関長の石川 紀氏にお話を伺いました。

# 世界へつながるゲートウェイを守り 安全・安心な社会を実現する名古屋税関

財務省名古屋税関長 石川 紀氏



## 日本の国際化を支える 税関の3つの使命

Q 税関の役割と主な業務内容についてお聞かせいただけますか。

税関には「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税等の徴収」、「貿易円滑化の推進」という3つの重要な使命があります。日本の国際化が進む中で、人や物の交流が著しく増大しており、貿易の第一線にいる税関の役割は非常に重要になっております。

どのような取り組みをしているのかといたしますと、「安全・安心な社会の実現」ということでは、社会悪物品（不正薬物や銃砲など）や知的財産侵害物品のほか、テロ関連物資に係る密輸の厳格な取り締まりなどがあります。「適正かつ公平な関税等の徴収」では、関税や消費税などの適正かつ公平な賦課や徴収の確保、輸入事業者に対し輸入貨物の事後調査も行っています。「貿易円滑化の推進」では、後ほどご説明しますが、国際貿易のセキュリティ確保と円滑化の両立を目指した認定事業者（Authorized Economic Operator：以下、

税関の3つの重要な使命

**税関の3つの重要な使命**

- 安全・安心な社会の実現**
  - ・社会進出品、知的財産権侵害物品の検出等
  - ・テロ、大量破壊兵器に対する取締強化
  - ・先端技術を活用した検査機器の導入等
- 適正かつ公平な関税等の徴収**
  - ・関税・消費税等の課税・徴収
  - ・輸入事後調査
  - ・関税公平税、関税分納、原産地特例等の適用等
- 貿易円滑化の推進**
  - ・貿易自由化と自由貿易協定等の締結
  - ・AEO（認定事業者）制度と外国税関当局とのAEO相互承認
  - ・通関業務書類の電子化・ペーパーレス化
  - ・NAICS海外展開（技術協力）等

**JAPAN CUSTOMS**

- ・世界と日本の間を往来する飛行機と船、ゲートである「税関」を表している。
- ・天秤は、税を徴収する機関としての公平さを、鍵は、保安を表している。
- ・日本の国旗は、世界の最先端であるという理想を掲げている。

**国花の桜は、税関の3つの使命である**  
**安全・安心、公平な課税、貿易の円滑化を意味している。**

「AEO」) 制度の推進などに取り組んでいます。

**Q 税関という概念は、そもそもいつ頃からあったのでしょうか。**

私が調べた範囲では、今のような税関の形になるのは、おそらくフランス革命後のナポレオン時代ではないかと思います。フランス革命前にも徴税請負人という仕事はありましたが、現在の税関とはかなり形が違います。徴税請負人は、国が税の徴収を委託した民間人ですが、自己の利益の増大を図ろうと激しい取り立てを行い、国民は契約額以上の納税を強いられたと伝わっています。

しかし不公平な税制への抵抗もあって法律が整い、ナポレオンが信頼できる軍人に国境を監視させたことが近代的な税関の始まりでしょう。日本の税関で制服を着用しているのは、この軍人の制服に起源があるのかもしれませんが。

日本では1859年には税関の前身である「運上所」が長崎港、神奈川港、箱館港（現在は函館港）に置かれました。日本は自由貿易を受け入れましたが、中国のアヘンによる惨状を見ているので、当初からアヘンの輸入を国禁にしており、それが現在の不正薬物輸入禁止に続いています。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、日本の開国に尽力したのが、現在の愛知県新城市にゆ

かりの深い岩瀬忠震<sup>いわせただなり</sup>という人です。開国に際して担当官としてアメリカとの調整に当たり、条約の案文を定め、これを他国にも適用するように働いておられます。

また交渉の中で、岩瀬はアメリカ領事だったタウンゼント・ハリスから、自由貿易をすると関税が取れる、つまり現金が入る制度があると教えられます。当時、江戸幕府の収入源の基本は、徴収した米を大阪に集め相場を立てて換金するという仕組みで、かなり不安定な財源だったわけです。

貿易が進めば進むほど税金が現金で入ってくるというのは願ってもないシステムで、日本の国家財政と経済の近代化はそこから始まったと言っても過言ではありません。

**Q 名古屋税関の歴史を教えてください。**

1889年に四日市港が外国貿易を行うことのできる特別輸出港に指定され、四日市大阪税関出張所が設置されたのが始まりです。10年後の1899年には、清水港、四日市港および武豊港（現在は衣浦港）が開港場として指定され、1907年に、熱田港が名古屋港に改称されると同時に開港場として指定されると、大阪税関名古屋税関支署が設置されました。その頃より、中部地方の繊維業・窯業の発展により貿易量が増えたため、正式な税関を設



置しなければならないということで、大阪税関の管轄であった愛知県、岐阜県、三重県と、横浜税関の管轄であった長野県、静岡県の計5県を管轄する名古屋税関として1937年に独立しました。このように、日本の近代化は自由貿易への参加から始まったと言えます。

今後もこの伝統を生かして、環太平洋パートナーシップ協定（Trans-Pacific Partnership：以下、「TPP」）や経済連携協定（Economic Partnership Agreement：以下、「EPA」）でも積極的に役割を果たして、世界の自由貿易をリードしていきたいと考えています。

## ものづくり産業の集積地として 円滑な貿易で日本経済の発展を支える

**Q** 名古屋税関での貿易動向や取り締まりの状況を教えてください。

2015年の管内貿易は、輸出額が18.4兆円（全国75.6兆円）、全国比24.3%で第1位です。輸入額が10兆円（全国78.4兆円）で東京、横浜、大阪に次いで4位です。日本の貿易が5年連続赤字の中で、名古屋税関管内は貿易黒字を維持しています。

その中で、名古屋港単体でみると輸出額は11.5兆円で全国第1位です。輸出入額の合計では16.9兆円で、管内全体（28.4兆円）の59%を占めています。名古屋港はまさに日本経済の発展を支えていると言えるでしょう。

次に、2015年の覚せい剤や大麻などの不正薬物摘発件数は全国で1,896件（前年比約5倍）となり、過去最高を記録しています。押収量は519kg（前年比18%減）、5年連続で500kgを超え依然として深刻な状況です。そのうち名古屋税関管内での不正薬物摘発件数は96件、押収量は約14kgになります。麻薬や指定薬物などは、ほとんどがインターネットを使用して外国に注文しており、ネット通販という手軽さが密輸につながっている面があります。名古屋税関としても水際での取り締まりに全力を挙げています。

また2015年の偽ブランド品などの知的財産侵害

麻薬探知犬による貨物の検査



名古屋税関にて差し止めた知的財産侵害物品



物品の輸入差止状況は、全国で29,274件と、過去最多だった前年に次いで高水準でした。その中には中国からの輸入品が全体の9割を超えています。名古屋税関での輸入差止件数は3,865件あり、全国の13%となっていて、こちらも高い割合となっています。こちらについても水際での取り締まりを日夜強化しています。

**Q** 管内である中部地方の特徴はどのようにお考えですか。

中部地方はものづくり産業に恵まれた日本有数の地域だと思います。自動車産業が有名ですが、完成車だけでなく部品の輸出も非常に多く、機械類および輸送用機器で輸出額の約8割を占めています。また、航空宇宙機器産業もシェアが高く、日本の航空機・部品生産額の約5割、航空機体部品では約7割を生産する地域です。今、MRJと新型のボーイング787の製造が進んでいますし、

最新型の自衛隊輸送機もこの地域で作られました。中部地方が日本の航空宇宙産業を支えているのです。

それ以外にも、機械工業、セラミック、半導体、光学センサーなどの開発や製造も強い地域です。今後は自動走行などITSの展開や、3次元映像機器、バーチャルリアリティ（以下、「VR」）用新端末の開発など、さらなる進展が見込まれています。VR用端末では、ディスプレイ装置への応用が期待されている有機EL関連の製造技術が強い地域でもあり、今後は楽しみです。

これらの産業の技術革新を進めていくとともに、諸地域との多国間貿易協定に対応していくことで世界をリードしていくと期待しています。

## テロ関連物資、不正薬物など 水際での取り締まりに尽力

**Q** 名古屋税関で現在実施されているプロジェクトについてお聞かせください。

まず「安全・安心な社会の実現」という点では、今年是非常に重要な年度です。5月26、27日は三重県伊勢志摩において、第42回先進国首脳会議（以下、「伊勢志摩サミット」）が開催されるからです。伊勢志摩はもともと観光資源が多い地域ですから、伊勢志摩サミットが無事開催されることによって知名度も、安心・安全度も高まる契機になるでしょう。

しかし世界的には、警備が手薄で攻撃が容易なソフトターゲットと呼ばれる場所や、一般人などをねらった痛ましいテロが各地で起きているので、油断はできません。昨年パリ同時多発テロ、今年イスタンブールやアンカラでもテロがありました。3月22日にはベルギーのブリュッセル国際空港と地下鉄駅の連続テロがあり、27日にはパキスタン第2の都市ラホールで、イースター時期のキリスト教徒を標的にしたタリバン爆弾テロがありました。ブリュッセルはベルギーの首都ですが、実際にはEUの首都とも言えるところで、これまでもソフトターゲットをねらった

テロ警戒周知ポスター



テロの可能性が示唆されていたところです。

伊勢志摩サミットは、そのような非常に厳しい状況の中で開かれる国際会議なので、名古屋税関でもサミット対策本部を設立し、一丸となって水際での取り締まり強化に取り組む態勢を作っています。（※このインタビューは3月29日に行われたものです。）

**Q** ホームページを拝見すると、南アフリカの女性が腰に巻きつけて2kg以上の覚せい剤を持ち込んだというレポートもありましたが、不正薬物の取り締まりについてはいかがでしょうか。

覚醒剤をはじめとした不正薬物取り締まりは、日本の税関の創設当初から主要な課題だったのですが、今もって「安全・安心な社会の実現」にとって重要であることに変わりありません。

覚せい剤は一般に「白い粉」と言われますが、メキシコから来たものはテキーラに溶かし込んで、液体化されており、東京税関では100kg以上摘発しています。名古屋でもブランデーに溶かしたケースもありました。どうしても広報するときには「白い粉、黒い武器」といううたい文句になってしましますが、結晶状や粉状のものばかりではな

いということ、一般の方々にも知っていただきたいと思ひます。

不正薬物の摘発では、みなさんよくご存知の麻薬探知犬の活躍もありますし、X線での摘発もあります。私が着任した2015年7月頃、台湾当局が、日本向けの冷凍マグロの腹の中から138kgの覚せい剤を摘発した事案がありました。そのマグロは静岡県の清水港に入港する予定であったとの報道もありました。一般にそのような大きなものはコンテナで入ってくるのですが、コンテナを丸ごと大型X線で調べることもあるのです。それ以外にもさまざまな機器を駆使して取り締まりに当たっています。

また空港では入国手続きなどで挙動不審になる人がおり、そういう人には徹底的な検査をさせてもらうなど、税関職員も目を光らせています。

**Q いわゆる偽ブランドなど、知的財産侵害物品の密輸についてはどうでしょうか。**

摘発件数は依然多く、キャラクターの偽ブランド品や宝飾品、バッグなど、実にさまざまなものがあります。この地域の特徴としては、例えば自動車の床敷マットやサンシェードなどの自動車関

係の侵害物品もかなりあります。

あとは、件数は多くありませんが、工業製品などの素材として利用される炭素化合物などの化学製品の知的財産侵害物品もあります。それもこの地域の製造業関連で入ってきたものと考えられます。

摘発に際しては職員も絶えず新しい情報を入手していますし、メーカーの方に説明していただくなどして知識を共有し、取り締まりに当たっています。

**金密輸の実態から  
日本と世界の税制を見る**

**Q 「適正かつ公平な関税等の徴収」について近年に特徴的なことはありますか。**

関税等を適正かつ公平に徴収するというこゝでは、正しい申告がされているかどうか、通関するとききちんと審査・検査を行うことのほか、事後に輸入者の会社や事務所などへ調査に行つて貿易関係書類等を確認するなど、日夜努力しています。

最近の課題としては、金の密輸があります。これは関税というよりは消費税の税率を悪用したたいへん悪質なものです。海外で金を買つて日本に持ち込む際には、空港や港で申告して8%の消費税を納めていただきます。それを日本で貴金属店に持って行くと、相場に消費税分の8%を上乗せして買い取ってもらえます。しかし、海外から隠して日本に持ち込めば、課税されることなく、それを売つた場合に消費税分を不正に手に入れることができるのです。消費税制の裏をかくというか、消費税制度が各国によって違ふということを悪用した密輸です。消費税率が10%になればもっとその誘惑は高まります。最近手口が巧妙になってきており、我々も少しでも見逃さないよう取り締まりを強化し、適正かつ公平な税の徴収に全力を挙げて取り組んでいる次第です。

密輸防止ポスター





## TPPの利点を活用した 自由貿易体制を推進

**Q** 現在、TPPは高い関心を集めていますが、「貿易の円滑化」という点ではいかがでしょうか。

この地域は日本のものづくりの集積地ですから、輸出・輸入含めて円滑な貿易を実現することは名古屋税関の重要課題です。

TPPの枠組みの中で機能する自由貿易体制ですから、加盟国外からの輸入にはTPPの関税率は適用されません。税関の役割としては、日本の企業がTPPの利点をフルに活用できるように支援することも大切です。どんなものがメイドインジャパンとしてTPP加盟国で扱ってもらえるかという説明や、メイドインジャパンではなくてもメイドインTPPであれば低い税率の適用か、場合によっては無税で輸出できることなどの周知を図っています。

東海地域は自動車産業の地域として知られていますが、繊維産業の集積地でもありましたので、今も繊維産業にかかわる方が多くいらっしゃいます。ただ、繊維というと中国に工場を持っていることが多いのですが、中国は今のところTPPに入っていません。

実は中国の隣のベトナムはTPP加盟国です。しかし「原産地基準」の原則により、非課税措置を受けるには、TPP加盟国産の原糸で製造した繊維しか使用できないので、単純にベトナムで縫製しただけではメイドインTPPにならないようなシステムになっています。そのようなことも含めて説明会を随時開催し、TPPへの理解を深めていただけるよう努力しております。

**Q** 今後の中部地方の貿易については、どのように予測されていますか。

自由貿易協定との関係では、投資も含めて伸び代は非常に大きいと見ています。最近、ベトナムが当地域から注目を集めているのもTPPのメンバー国というのもあると思います。

中国に工場をつくるのは日本では普通になりま

したが、中国で製造したものはメイドインTPPにはなりません。物によってはメイドインジャパンとしてアメリカやカナダに持っていきながらできないわけではありませんが、ベトナムであればメイドインジャパンでなくてもメイドインTPPになります。

機械製品ではベトナムの工場である程度作って、日本の工場で完成度の高い部品にして北米に持っていけば、これはメイドインTPPになります。日本でコア部分だけ作ってベトナムで作られた汎用品と組み合わせ持って行っても、メイドインジャパンにはならないかもしれませんが、メイドインベトナムでメイドインTPPになります。しかもベトナムは、アメリカの影響が強い南部の地域に産業基盤がありますので、日本企業とベトナム企業が組んで国際分業体制を築けば、単純な輸出入を超えた大きな経済効果があるのではないかと考えています。

また、メキシコもTPP加盟国です。今後の製造拠点として想定することもでき、潜在的な成長力は非常に大きいような気がします。

将来は自由貿易を目指す主要な地域や国の方々とともに、世界水準に一步先んじた自由貿易体制の構築を通じて投資、人的投資、輸出入などで頑張っていくべきだと痛感しています。特にものづくりが非常に盛んなこの地域は、海外工場を持つ企業も多いので、TPPがさらなる投資の誘引になるのではないかと期待しています。

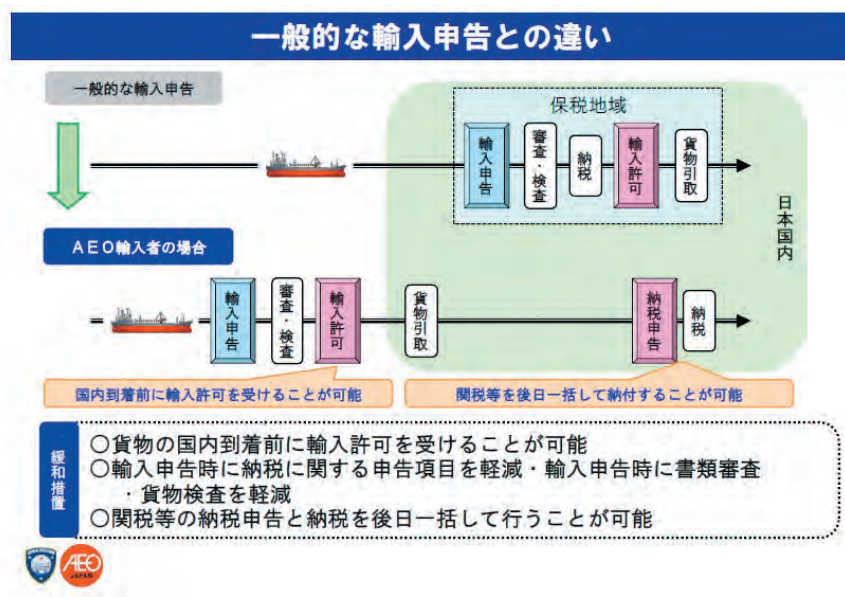
## 通関手続きの簡素化で 国際競争力を強化

**Q** そのほか、特に力を入れているプロジェクトをお聞かせください。

1つには、輸出入申告官署の自由化に取り組んでいます。貿易円滑化の推進に関し、輸出入業者をはじめとした貿易関係事業者の国際競争力の強化や利便性の向上に資する観点から、通関手続きのより一層の迅速化が求められているからです。

そこで、コンプライアンスと貨物のセキュリティ

AEO制度（輸入申告の場合）



管理に優れた事業者を税関が認定し、通関手続きの簡素化などの便宜を与えるAEO制度を進めています。これまでは、物があるところで通関手続きをするのが原則でしたが、AEO事業者であれば日本のどこの官署でも通関申告ができますことになります。この制度を使えばさらに迅速で円滑な通関ができるようになるはずです。

AEOの認定件数は全国で549者。うち名古屋税関では94者（2016年3月24日現在）で、全国でも多い方だとは思いますが、AEOを取得したいという方を対象にしたセミナーの開催や広報活動をしており、さらに増えていく予定です。

また、EPAの推進について啓蒙活動を行っています。EPAは特定の国や地域同士で貿易や投資を促進するために、関税の撤廃や削減、投資環境・ビジネス環境の整備、さまざまな規制緩和などを約束する条約です。日本では現在、14カ国・地域とEPAを結んでおり、2カ国・地域と署名済みです。現在、交渉を行っているのは9カ国・地域となっています（2016年3月25日現在）。単なる輸出入の域を超えた大きな自由貿易の枠組みとして、非常に期待しています。

あとは、インバウンドにも積極的に取り組んでいきます。昇龍道の入り口になっている中部国際空港（セントレア）の使い勝手を良くすることは、

名古屋税関の大きな課題です。LCC（Low Cost Carrier）用の第2ターミナル建設構想もあり、税関業務を24時間体制で回せるようになるためには、もう1つの部隊が必要になる可能性があります。安全・安心の確保と円滑な通関との両立は最大の使命と考えています。

### ものづくり産業の技術革新と世界に一步先んじたイノベーションに期待

Q これまでのお仕事で印象深かったことはどんなことでしょうか。

大蔵省に入省し、青年期はフランクフルトの総領事館で北欧の金融危機を見聞しました。日本に戻った後は銀行局（1998年廃止）で、金融危機の始まりのころにさまざまな仕事をしました。1999年から2002年には預金保険機構で不良債権処理の担当でした。銀行の破綻処理に関わるような立場にあり、当時、世間を騒がせた「そごう問題」にも携わりました。これは、メインバンクの破綻ということもあり、2000年に小売業としては日本最大の負債額を抱えて百貨店が経営破綻した事例です。最終的に民事再生になりましたが、こういった激動の時代のことは、強く自分の中に残ってい

ます。

**Q ヨーロッパに赴任されたとか。美味しいお酒や食べ物、芸術などの思い出はいかがですか。**

ヨーロッパには合計8年いました。ドイツ滞在が長く、ベルリンではオペラに行くこともありました。ドイチェ・オペ（ベルリン・ドイツ・オペラ）では、「トゥーランドット」（プッチーニ）や「後宮からの誘拐」（モーツァルト）などを楽しみましたね。

また、オペラの後に飲むヴァイツェンビール。これがおしかったです。つまみにはフライッシュケーズという腸詰めをせずに型に入れて焼き上げたソーセージがぴったりでした。バイスブルストというバイエルン州の伝統的なソーセージもよく食べました。

名古屋には2015年7月に着任したのですが、名古屋の料理も大好きで、なんでもよく食べます。

**Q 最初に名古屋に来られた時の印象を教えてくださいませんか。**

自転車に乗ることが好きなのですが、走っているとメーカーのビルや工場が多く、やはりものづくりのまちだなという印象があります。路地に入っても製作所のような建物が並んでいる町は、東海地域ぐらいではないでしょうか。この地域の特色でもあり強みであると感じています。

**Q では最後に、今後この地域が目指していくべき方向はどのようなものだとお考えですか。**

やはり税関にありますので、自由貿易を通じて刺激を受け、それをさらに経済的な価値の創出につなげていくということに尽きると思います。世界中でイノベーションが起きており、例えばVRはその最たるものだと思いますし、自動車では自動運転と電気自動車の時代が将来確実にやって来ます。これらの新しい技術に触発され、さらに一歩進めた技術革新と投資を行うことが必要でしょう。それが成功した暁には輸出のさらなる増大、そして世界の技術と競い合うというステップになるのではないのでしょうか。

先日、ドイツのニュースをインターネットで見えたら、トラックの自動走行実験というのをやっていた、連なって走るトラックがまるで列車のように見えました。車々間通信などのIT技術を駆使して、トラックが自動走行する。これは物流に革命的变化をもたらすシステムです。省エネという観点からも効果は絶大だと思いました。時代は変わっていきます。世界でイノベーションは尽きることはありません。名古屋の地からも新たな価値の創造が次々と生まれてくると感じています。



## プロフィール

石川 紀（いしかわ おさむ）

1960年生まれ 55歳

1983年 東京大学卒業、大蔵省入省

1992年 外務省在フランクフルト日本国総領事館領事

2004年 内閣官房地方分権推進室参事官

2010年 外務省在ドイツ日本国大使館公使

2013年 預金保険機構財務部長

2015年 財務省名古屋税関長